

地歴公民科の授業改善報告

◇ 研究授業（歴史総合：関高等学校・鹿児島大学連携授業）

- 日時：令和4年5月19日 第5限
- 科目：歴史総合
- 実施クラス：1年1～7組
- 授業者：古田智暉・岩田拓弥
- 単元：アジアのなかの江戸幕府
- テーマ：陶磁器から見た江戸時代の対外交流

◆授業の概要

- ・歴史総合で扱った「アジアのなかの江戸幕府」という授業を発展させる。
- ・「四つの口」体制についての理解を深め、江戸時代の外交の様子について考える。
- ・鹿児島大学の渡辺芳郎教授のオンライン講義を聞き、考古学という学問について理解した上で、陶磁器の流通から「四つの口」体制について考える。
- ・オンライン講義を通して、大学の講義や研究について知る。

◇ 研究授業の成果と今後の課題

【成果】

- ・昨年と同様にオンライン会議システムを用いて、リアルタイムで大学教授の講義を受ける機会を設けることができた。
- ・生徒が大学での講義や研究について知る機会を設けたことにより、1年生の時点から大学での研究をイメージして進路選択をすることが可能になった。
- ・オンラインでの講義を通して、考古学という学問について理解し、生徒にとって考古学の研究方法・研究成果に触れることができた。
- ・歴史総合の授業での「四つの口」体制の理解をもとに、江戸時代の外交を陶磁器の流通を通して考えることができた。

【課題】

- ・授業時間の兼ね合いで生徒が大学教授に質問をする時間を十分に確保できなかった。
→ 2時間連続の授業にし、大学教授と生徒が意見を交換する場を設けたい。
- ・感想用紙だけではなく、生徒の理解度を確認するためにもワークシートなどを作成しても良かったと感じた。
- ・1年間の歴史総合の授業の流れを整理し、高大連携授業のより効果的なタイミングを再検討する必要があると感じた。